

Anthony Watanabe

Professor Kumiko Saito

LAIB 4000 – LAIB Internship

12/04/2025

インターンシップ作文

序論

2025 年の夏期（5 月から 7 月）にかけて、私はアメリカ・サウスカロライナ州ベイツバーグ・リーズビルにある日立レール社（Hitachi Rail）にて、製造計画担当としてインターンシップを行い、合計 560 時間勤務しました。このインターンシップでの目標は、製造の過程や製造業界の仕組みをより深く理解すること、実際の企業の運営体制を学ぶこと、そして初めての職務経験としてできる限り多くのことを学ぶことの 3 点です。。また、このインターンシップを通して将来のキャリア形成に役立つ人脈を築くことも目的の一つでした。

インターン期間中は、2 つの大規模プロジェクトに取り組むとともに、複数の部署を訪問してそれぞれの役割や業務内容を学び、会社全体の生産プロセスの流れを把握するよ

う努めました。また、他のプランナーが日常業務やプロジェクトで支援を必要とする際には、積極的に協力し、チームワークを大切にしながら業務に取り組みました。

企業紹介

日立レール社（Hitachi Rail）は製造業に属し、鉄道関連製品の製造および販売を行っている企業です。私が勤務した工場では主に鉄道信号装置を製造しており、その中でも転てつ機（スイッチマシン）が主力製品です。そのほかにも、配線部門、機械加工部門、電子部門などがあり、それぞれの部門で製造された多様な製品を取り扱っています。

日立レールの企業理念は、「すべての乗客、顧客、地域社会が、よりつながりのある、シームレスで持続可能な交通の恩恵を享受できるよう支援すること」であり、3つの価値観として「和（調和）」「誠（誠実）」「開拓者精神（パイオニア精神）」を掲げています。

主要な顧客は、世界各国の鉄道会社および関連組織であり、同社は現在、50 か国以上

で事業を展開しています。私が勤務した工場では、主にニューヨーク地下鉄関連の組織に信号機器を供給していました。

日立レールは現在、世界で約 24,000 人の従業員を有し、年間売上高は約 70 億ユーロに達しています。親会社である日立製作所グループ全体では、世界 140 か国で事業を展開し、27 万人以上の従業員を雇用しています。

業務内容

私は製造計画部門に所属し、業務のほとんどを同僚と協力しながら進めました。勤務時間は月曜日から金曜日の午前 7 時 30 分から午後 4 時までで、昼休憩は 30 分でした。上司は非常に柔軟に対応してくださり、私の場合は他のインターンよりも 30 分遅い出勤が認められていました。初日には、「スカベンジャーハント」が実施され、他のインターン生とともに工場内を探索し施設全体の構造を理解する良い機会となりました。

その後、安全衛生教育（Health and Safety Training）および静電気対策教育

（ESD(Electrostatic Discharge) Training）を受講しました。部品の作業が行われてい

る区域や倉庫内では、ESD 対策用品や鋼鉄製安全靴、安全ゴーグルなどの保護具を着用しなければならないと指導されました。インターン開始から最初の 2 週間は、マネージャーの指示のもと、各プランナー、購買担当者、組立ライン、検査担当者を順にシャドーイングし、製造工程および工場全体の運営の流れを学びました。

最初の期間以降は主に一人のプランナーの指導のもとで勤務し、助言を受けながら自身のプロジェクトにも取り組みました。具体的な業務内容としては、再スケジュール報告書や不足報告書の作成、欠品部品の確認、報告書の自動化式の作成、作業指示書の作成および倉庫への提出などを行いました。

再スケジュール報告書の作成にあたり、ベンダーから「予定より早く部品を納品したい」「もう少し時間を要する」といった内容のメールを受け取り、その情報を Excel シートに入力しました。その後、工場全体で使用されている SAP システムにこれらの変更を反映させました。SAP は、多くの製造企業が利用するアプリケーションおよびシステムであり、製造工場が中核業務を管理するのに役立ちます。

不足報告書の作成では、約束された納期までに未着の部品を特定し、その情報を Excel シートに入力した後、ベンダーに状況確認のメールを送付しました。

自動レポート生成機能の構築では、別の計画担当者と協力し、再スケジュール報告書と不足報告書の自動作成を可能にするスクリプトや自動化手法を模索しました。最終的に、手作業を削減する基本的な自動化フレームワークの開発に成功しました。

また、複数の会議に参加し、プランナーの役割や会社全体の進捗管理の方法について理解を深めることができました。

インターンシップ期間中に取り組んだ大きなプロジェクトは2つあります。1つ目は、シックス・シグマのグリーンベルト（Six Sigma Green Belt）認定の取得、もう1つは部品のリードタイム（納期）を更新する業務です。

シックス・シグマの研修は週に2回程度実施され、グリーンベルトプロジェクトとして実際の業務課題の改善に取り組みました。私は他のプランナーとペアを組み、「外注作業指示書プロセスの改善」というテーマのもとで調査・分析・発表を行いました。これは当社工場で部品の一部加工を行い、その後、自社では対応できない次の工程を別のベンダーに外注するプロセスです。このプロジェクトでは、5つのフェーズを経ます。最初の定義フェーズでは、問題点、プロジェクト目標、顧客要件を明確に定義します。

次に測定フェーズでは、問題を定量化し、現状のパフォーマンス基準を確立します。その後、分析フェーズに移行し、データを用いて問題の根本原因を特定します。第四段階は改善フェーズであり、問題の根本原因を排除するための解決策を開発・実施します。最終段階は管理フェーズであり、改善が持続的に維持されることを保証します。各段階の終わりにはプレゼンテーションを実施し、工場長の承認を得て次のフェーズに進むという仕組みでした。プロジェクトは途中までしか進めることができませんでした。2026 年 1 月から 3 月にかけて再度参加し、続きを行う予定です。

もう 1 つのプロジェクトであるリードタイム更新の業務では、購買部門の担当者の指導のもと、仕入先のウェブサイトやメールを通じて情報の収集と更新を行いました。全 5,000 部品のうち、約 2,500 部品のリードタイムを更新することができ、業務の効率化に貢献することができました。

また、インターン向けの社内イベントにも多数参加しました。工場内を探索するスカベンジャーハント、日立グループ各社から集まったインターン生のための交流会、地域貢献活動として行われた養豚場でのボランティア、そして全国インターンの日のイベント

などです。これらの活動を通じて、企業がインターン生に対して学びと成長の機会を積極的に提供しようと努力してしていることを強く感じました。

学んだこと

このインターンシップを通して、私は多くのことを学びました。まず、製造プランナーの補助業務を通じて、企業で使用されている SAP システムの操作方法を習得しました。初めのうちは難しく感じましたが、徐々に主要な機能を理解し、業務全体の流れを把握できるようになりました。特に印象に残っているのは、部品の所在確認を行う際に、SAP を用いて情報を照合した経験です。この作業を通じて、倉庫の構造や在庫管理の仕組みを実践的に学ぶことができ、理論だけでなく現場での運用を理解する貴重な機会となりました。

また、シックス・シグマのプロジェクトを通して、頻繁に行われたプレゼンテーションを通じて発表力を鍛えることができました。特に第 2 フェーズの発表では、上司から多くの質問を受け、一回目の発表では承認を得ることができませんでしたが、その経験を通じて「失敗を恐れず、改善を重ねることの大切さ」を実感しました。

さらに、リードタイム更新のプロジェクトでは、Excel のスキルを大きく向上させることができました。効率的で分かりやすい表を作成するために、さまざまな関数や数式の使い方を学びながら作業を進め、他のプランナーや上司から多くの助言をいただきました。その結果、データの整理や分析をより正確かつ迅速に行えるようになりました。

今後の課題

一方で、インターンシップ期間中に課題として感じた点もありました。

1 つ目は、業務で使用する SAP に対する理解不足です。基本的な操作は習得できたものの、まだ十分に使いこなせる段階には至っておらず、今後さらに学習を重ねる必要があると感じました。

もう 1 つの課題は、会議での発言力の不足です。多くの会議に参加する機会がありましたが、業務全体に関する知識が十分でなく、積極的に意見を述べることができませんでした。今後は企業の仕組みや業務内容をより深く理解し、自信を持って発言できるよう努めていきたいと考えています。

このインターンシップでの経験は、私にとって非常に貴重なものとなりました。造業の仕組みを学ぶことができました。企業運営の実態についても理解を深めることができました。SAP や Excel といった実務スキルも向上しました。さらに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も大きく伸ばすことができました。

結論

今回の経験を通じて、自身の強みと今後の課題を明確にすることができたことは、今後の成長において大きな財産となると感じています。今後は、このインターンシップで得た知識やスキルをさらに発展させ、国際ビジネス分野でのキャリア形成に生かしていきたいと考えています。